

# 2015年第4回村上春樹国際シンポジウム

大会テーマ 村上春樹文学における「両義性」(pharmakon)

期 日：2015年7月25日～27日(3日間)

場 所：日本北九州国際会議場(小倉)

北九州市小倉北区浅野3丁目9番30号

主催者：(台湾)淡江大学村上春樹研究センター・淡江大学日本語学科

共催者：(日本)北九州市

## プログラム

2015年7月25日(土曜日)

2015年7月25日(土曜日)					
0900-1000	受				付
1000-1030	開幕式(2階国際会議室) 曾 秋桂(淡江大学村上春樹研究センター主任) 北橋 健治(日本北九州市市長) 頼 振南(台湾日本語文学会理事長) 頼 錦雀(台湾日本語教育学会理事長) 奥村 訓代(日本比較文化学会会長)				
1050-1155	論文口頭発表(1)				
	第1セッション	第2セッション	第3セッション	第4セッション	第5セッション
	2階国際会議室	21会議室	22会議室	32会議室	33会議室
1050-1055	司会兼 コメンテーター	司会兼 コメンテーター	司会兼 コメンテーター	司会兼 コメンテーター	司会兼 コメンテーター
	日高 佳紀 奈良教育大学 教授	盧 明姫 東国大学校 教授	高橋 龍夫 専修大学 教授	奥村 訓代 高知大学 教授	八尋 春海 西南女学院大学 教授
1055-1115	発表者 01	発表者 03	発表者 05	発表者 07	発表者 09
	小林 由紀 東呉大学 兼任助理教授	落合 由治 淡江大学 教授	奥田 浩司 愛知教育大学 准教授	石川 隆男 台湾大学 兼任講師	楊 炳菁 北京外国語大学 副教授
	テーマ	テーマ	テーマ	テーマ	テーマ
	『女のいない男たち』における「木野」の「両義」性—物語構造連鎖から読み解く	村上春樹作品の文法—文型と語彙のテクスト的機能の歴史的継承と発展	『海辺のカフカ』と江藤淳『成熟と喪失』—〈母〉を〈求めること〉の両義性	『風の歌を聴け』にみる両義性—デタッチメント&コミットメント	村上春樹文学における両義性—「パン屋再襲撃」における“学生風のカップル”を中心に
1115-1125	質疑応答				
1125-1145	発表者 02	発表者 04	発表者 06	発表者 08	発表者 10
	廖 育卿 淡江大学 助理教授	頼 錦雀 東呉大学 教授	山根 由美恵 広島国際大学 非常勤講師	葉 蕙 マレーシア・ラーマン大学講師	劉 曉慈 熊本大学社会文化科学研究科

					博士後期
	テーマ	テーマ	テーマ	テーマ	テーマ
	村上春樹「木野」論 一蛇の持つ「両義的」意味から見て	『シドニー!』から見た村上春樹の異文化観—日本語教育への示唆	「母」の怒り—「海辺のカフカ」における母と子の両義性を視座として	「羊」の両義性—『羊をめぐる冒険』と聖書との関連性についての考察	村上春樹「加納クレタ」試論—クレタのもつ「水」と「火」の要素をめぐる

1145-1155 質疑応答

1155-1320 昼食(参加費プラス予稿集費申込者のみ弁当を提供)

1320-1420 基調講演(1) **入場無料** 1階メインホール

1320-1325 司会者：頼 振南(輔仁大学教授・台湾日本語文学会理事長)  
1325-1420 講演者：森 正人(熊本大学名誉教授・尚絅大学学長)  
テーマ：村上春樹文学における両義性—内界としての外部

1420-1430 休憩時間

1430-1530 基調講演(2) **入場無料** 1階メインホール

1430-1435 司会者：頼 錦雀(東呉大学教授・台湾日本語教育学会理事長)  
1435-1530 講演者：柴田 勝二(東京外国語大学教授)  
テーマ：語られるものと語られないものの間—村上春樹における寓意の両義性

1530-1540 休憩時間

1540-1640 基調講演(3) **入場無料** 1階メインホール

1540-1545 司会者：彭 春陽(淡江大学副教授)  
1545-1640 講演者：小森 陽一(東京大学教授)  
テーマ：村上春樹文学における両義性と日本の近代—『海辺のカフカ』における『坑夫』の位置—

1730-1930 懇親会(リーガロイヤルホテル2階のコルベークにて)

1930- 重要無形民俗文化財「戸畑祇園大山笠」見学(各自)

**2015年7月26日(日曜日)**

0900-1005 論文口頭発表(2)

	第6セッション	第7セッション	第8セッション	第9セッション	第10セッション
	2階国際会議室	21 会議室	22 会議室	32 会議室	33 会議室
0900-0905	司会兼 コメンテーター	司会兼 コメンテーター	司会兼 コメンテーター	司会兼 コメンテーター	司会兼 コメンテーター
	榎原 修 広島大学 教授	西口 光一 大阪大学 教授	林 裕二 西南女学院大学 教授	范 淑文 台湾大学 教授	邱 若山 静宜大学 副教授
0905-0925	発表者 11	発表者 13	発表者 15	発表者 17	発表者 19
	曾 秋桂 淡江大学 教授	羅 曉勤 銘傳大学 副教授	内田 康 淡江大学 助理教授	王 佑心 銘伝大学 助理教授	沈 載賢 翰林大学校 研究員
	テーマ	テーマ	テーマ	テーマ	テーマ
	神話の力が結ぶ夏 目漱石と村上春樹	中上級日本語作文 クラスにおける読	村上春樹作品にお ける暴力の両義性	村上春樹『羊をめ ぐる冒険』におけ	村上春樹作品にお ける「井戸」の意

	—「木野」の蛇の持つ「両義性」(pharmakon)による男の嫉妬物語	み取る能力の養成—村上春樹の「小確幸」を題材として	—『海辺のカフカ』を中心に	る「弱さ」の両義性について	味—『ノルウェイの森』を中心に
0925-0935	<b>質疑応答</b>				
0935-0955	<b>発表者 12</b>	<b>発表者 14</b>	<b>発表者 16</b>	<b>発表者 18</b>	<b>発表者 20</b>
	柴田 稔 梅光学院大学 大学院生	孫 寅華 淡江大学 副教授	余 盛延 台北科技大学 教授	王 雅辰 淡江大学 修士課程二年	汪 欣慈 台湾大学 修士課程三年
	<b>テーマ</b>	<b>テーマ</b>	<b>テーマ</b>	<b>テーマ</b>	<b>テーマ</b>
	春樹は両義性を問えるか—漱石・芥川・『女のいない男たち』	「女のいない男たち」からのぞく教室活動の「i+1」—淡江大学非日本語専攻科目「日本語三」の試み	The Exotic and the Familiar: The Pharmakon of Cross-cultural Appropriation in Haruki Murakami's <i>Kafka on the Shore</i>	村上春樹作品における唄の役割—『世界の終わりとハードボイルド・ワンダーランド』を中心に	『スプートニクの恋人』論—「鏡」を中心に
0955-1005	<b>質疑応答</b>				
1010-1115	<b>論文口頭発表(3)</b>				
	<b>第 11 セッション</b>	<b>第 12 セッション</b>	<b>第 13 セッション</b>	<b>第 14 セッション</b>	<b>第 15 セッション</b>
	2 階国際会議室	21 会議室	22 会議室	32 会議室	33 会議室
1010-1015	<b>司会兼 コメンテーター</b>	<b>司会兼 コメンテーター</b>	<b>司会兼 コメンテーター</b>	<b>司会兼 コメンテーター</b>	<b>司会兼 コメンテーター</b>
	波瀲 剛 九州大学 教授	董 莊敬 文藻外語大学 副教授	蔡 佩青 静岡英和学院大学 准教授	米村 みゆき 専修大学 准教授	頼 雲莊 東呉大学 副教授
1015-1035	<b>発表者 21</b>	<b>発表者 23</b>	<b>発表者 25</b>	<b>発表者 27</b>	<b>発表者 29</b>
	侯 元達 淡江大学 修士課程二年	林 立萍 台湾大学 教授	陳 美瑤 文藻外語大学 助理教授	彭 春陽 淡江大学 副教授	葉 凌 熊本大学 博士
	<b>テーマ</b>	<b>テーマ</b>	<b>テーマ</b>	<b>テーマ</b>	<b>テーマ</b>
	『女のいない男たち』の第一作における男のトラウマ	台湾で出版された村上春樹の中訳作品に見られる人名・地名の表記	『アフターダーク』における女性身体両義性—ジェンダー批評を視座に	村上春樹「螢」論—日本人らしいこだわりの短編小説	村上春樹小説における両義性と2000年代—『神の子どもたちはみな踊る』を中心に
1035-1045	<b>質疑応答</b>				
1045-1105	<b>発表者 22</b>	<b>発表者 24</b>	<b>発表者 26</b>	<b>発表者 28</b>	<b>発表者 30</b>
	黄 如萍 高雄餐旅大学 副教授	許 均瑞 銘伝大学 副教授	楊 錦昌 輔仁大学 副教授	范 淑文 台湾大学 教授	楊 琇媚 南台科技大学 助理教授
	<b>テーマ</b>	<b>テーマ</b>	<b>テーマ</b>	<b>テーマ</b>	<b>テーマ</b>
	〈撮取〉の方法—村	台湾の若者が語る	『1Q84』に見る	村上文学における	村上春樹「UFO

	上春樹「シェエラザード」論	村上春樹一名声とスタイルへの認識	『平家物語』のライトの両義性	都市空間の両義性—『ノルウェイの森』を例として	が釧路に降りる」試論
1105-1115	<b>質疑応答</b>				
1120-1225	<b>論文口頭発表(4)</b>				
	<b>第 16 セッション</b>	<b>第 17 セッション</b>	<b>第 18 セッション</b>	<b>第 19 セッション</b>	<b>第 20 セッション</b>
	2 階国際会議室	21 会議室	22 会議室	32 会議室	33 会議室
1120-1125	<b>司会兼 コメンテーター</b>	<b>司会兼 コメンテーター</b>	<b>司会兼 コメンテーター</b>	<b>司会兼 コメンテーター</b>	<b>司会兼 コメンテーター</b>
	高橋 由貴 福島大学 准教授	羅 暁勤 銘傳大学 副教授	平野 和彦 山梨県立大学 准教授	坂元 昌樹 熊本大学 准教授	楊 琇媚 南台科技大学 助理教授
1125-1145	<b>発表者 31</b>	<b>発表者 33</b>	<b>発表者 35</b>	<b>発表者 37</b>	<b>発表者 39</b>
	王 嘉臨 淡江大学 助理教授	豊田 圭子 北九州工業高等専門学校 講師	王 静 名古屋大学 博士後期	中村 祥子 輔仁大学 副教授	陳 羿潔 淡江大学 修士課程二年
	<b>テーマ</b>	<b>テーマ</b>	<b>テーマ</b>	<b>テーマ</b>	<b>テーマ</b>
	村上春樹「女のいない男たち」の方法	『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』における動詞ヤルの用法	『色彩を持たない多崎つくると彼の巡礼の年』におけるユートピア共同体及びその両義性	『国境の南、太陽の西』論—「島本」の両義性	『東京奇譚集』における「不思議な出来事」の意味—各主人公の視点から見て
1145-1155	<b>質疑応答</b>				
1155-1215	<b>発表者 32</b>	<b>発表者 34</b>	<b>発表者 36</b>	<b>発表者 38</b>	<b>発表者 40</b>
	周 子軒 淡江大学 修士課程一年	清水 泰生 同志社大学 嘱託講師	徐 子怡 東京大学 博士課程三年	齋藤 正志 文化大学 副教授	張 嘉雯 淡江大学 修士課程二年
	<b>テーマ</b>	<b>テーマ</b>	<b>テーマ</b>	<b>テーマ</b>	<b>テーマ</b>
	村上春樹の短編小説「女のいない男たち」に見た「消しゴム」の意味	村上春樹とランニング—活字媒体を中心に	村上チルドレンとしての中国「70後」の作家たち—衛慧、慶山(旧名: 安妮宝贝)の村上受容を中心に	誘惑者(tempter)と両義性(pharmakon)—短篇「独立器官」の「女」と長篇『国境の南、太陽の西』の「島本」	不思議な出来事の影響力—「偶然の旅人」と「ハナレイ・ベイ」から見て
1215-1225	<b>質疑応答</b>				
1225-1330	<b>昼食(参加費プラス予稿集費申込者のみ、弁当を提供)</b>				
1330-1435	<b>論文口頭発表(5)</b>				
	<b>第 21 セッション</b>	<b>第 22 セッション</b>	/		
	2 階国際会議室	21 会議室			
1330-1335	<b>司会兼 コメンテーター</b>	<b>司会兼 コメンテーター</b>			

	齋藤 正志 文化大学 副教授	楊 錦昌 輔仁大学 副教授	
1335-1355	<b>発表者 41</b>	<b>発表者 43</b>	
	米村 みゆき 専修大学 准教授	平野 和彦 山梨県立大学 准教授	
	<b>テーマ</b>	<b>テーマ</b>	
	『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』におけるルーティン主義と空虚さ—「木野」の両義性を参照して	村上文学を読む—視点—作品の諸相から	
1355-1405	<b>質疑応答</b>		
1405-1425	<b>発表者 42</b>	<b>発表者 44</b>	
	周 玉慧 中央研究院民族學 研究所 研究員	坂元 昌樹 熊本大学 准教授	
	<b>テーマ</b>	<b>テーマ</b>	
	村上春樹『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』における自我の両義性	村上春樹と日本の戦後文学—『若い読者のための短編小説案内』への視点	
1425-1435	<b>質疑応答</b>		
1435-1450	<b>休憩時間(参加費プラス予稿集費申込者のみ、飲み物無料)</b>		
1450-1510	<b>ショート・ムービー「村上春樹を読む小確幸」発表会(2階国際会議室)</b> 司会：曾 秋桂 (淡江大学教授・村上春樹研究センター主任)		
1510-1620	<b>パネルディスカッション(2階国際会議室)</b> テーマ：村上春樹文学における「両義性」		
1510-1520	パネル司会：曾 秋桂 (淡江大学教授・村上春樹研究センター主任)		
1520-1530	パネリスト：小森 陽一 (東京大学教授)		
1530-1540	パネリスト：柴田 勝二 (東京外国語大学教授)		
1540-1550	パネリスト：森 正人 (熊本大学名誉教授・尚絅大学学長)		
1550-1620	<b>総合討論</b>		
1620-1630	<b>閉幕式(2階国際会議室)</b> 曾 秋桂 (淡江大学教授・村上春樹研究センター主任)		
0900-1700	<b>2015年7月27日(月曜日)風土と文学をめぐる見学 (エクスカージョン)</b>		

## 後援

公益財団法人交流協会

## 助成

独立行政法人国際交流基金

## 協賛

(日本)日本比較文化学会・熊本大学・北九州市立文学館・公益財団法人西  
日本産業貿易コンベンション協会・法瀧寺(広島)

(台湾)台湾日本語文学会・台湾日本語教育学会・致良出版社・瑞蘭国際出版・  
淡江大学日本語学科 OB 会